

# カナダにおける規制の政策評価に関する調査研究【事例2】

事例名：食品・医療品規制の改正（ビール）

カナダ政府機関名：食品検査庁 影響度：低

（参考）

影響度	年間コスト	影響評価方法
高	1,000万カナダドル以上	定量化かつ金銭価値化が必要
中	100万～1,000万カナダドル	定量化（金銭価値化不要）
低	100万カナダドル以下	定性的に評価

## 【課題】

食品・医薬品規制で定められる「ビール類（ビール、エール、スタウト、ポーター、モルト）」の基準の定義が不明確なため、新たな素材でのビール生産の検討の際、合規性を事業者が自ら判断するのが困難。

また、ビール、エール、スタウトといった種類ごとに基準が存在し、混乱の原因になっている。

## 【規制改正の内容】

- ・ イースト菌以外の微生物を使用可能なよう定義を拡大
- ・ 「ビールに共通する香り、味、特徴を持たせる」との基準を、「残留糖度の割合を全体の4%以下」と明確化
- ・ 現存するビール、エール、スタウト、ポーター、モルトのそれぞれの基準は、ビール類として統一 等

## 【費用：5,479,747カナダドル（10年間）】

ビール類商品の生産・販売に関係する800の利害関係者（製造、輸入業者等）に連絡して得た回答を基に10年間の割引現在価値を算出。

	影響受ける事業者数	製品当たり平均労働時間	1事業者当たり製品数	費用（カナダドル）
ラベル表示	263(45%)	19	40	4,649,289
糖度試験	77(13%)	0.74	11	531,642
製造工程の変更	23(4%)	87	2	283,063
教育・学習	592(100%)	1	—	15,222
食品検査庁への登録	8(1.4%)	2.5	9	530

## ＜費用に係る考慮要素＞

- ・ 行政手続費用は1,397カナダドル（年間）で、利害関係者数が592なので、一利害関係者当たり2カナダドルと行政手続費用の影響は限定的。
- ・ 規制の適用に2年間の移行期間を設けることで、592の利害関係者のうち555を占める中小企業の負荷を約30%減少。

## 【便益（定性的）】

### ①ビール業界

- ・ ビール類商品のイノベーション機会の増加
- ・ ビール類商品の基準の重複を撤廃しラベル表示方法の混乱を解消
- ・ ビール類商品の質の担保
- ・ ビール類商品の基準の簡素化により新商品を開発する事業者に対する負担を減少

### ②カナダ国民

- ・ 商品の材料に関する情報を開示することで消費者の選択の自由の拡大と生活の質の向上
- ・ アレルギー物質を間違えて摂取する事故防止
- ・ ラベル表示によるアレルギー物質の確認の簡素化
- ・ ビール類商品の種類の増加

### ③カナダ政府

- ・ 基準審査の簡素化によるコスト減少